

研修計画

佐藤

研修主題 「自ら考えを深め、表現する力を高める児童生徒の育成」
～データ活用×言語技術×ICTによる探究的な学びを通して～

1 主題設定の理由

2025 年 4 月に実施した標準学力検査 NRT の結果によると、本校の児童生徒は、どの学年も国語、算数ともに全領域において平均正答率が全国平均を大きく上回っており、基礎的な学力が十分に身に付いていると言える。特に、国語では、自分の考えや感想を伝え合うことに対して、全学年ともに児童生徒の平均正答率が全国よりも非常に高く、思考力・判断力・表現力等もよく身に付いていることが分かった。

しかし、算数（小学部対象学力検査による）や数学、社会科、理科（中学部対象学力検査による）におけるデータの活用場面では、数値や表、グラフ等から読み取った情報を十分に解釈し、それを言葉で表現することに課題がある児童生徒もいることから、今後は、各教科領域においても児童生徒の活用力をさらに育む主体的な学びが求められる。

これらのことにより、これまでに国語科を中心に培ってきた児童生徒の表現力を活用し、各教科等領域において、自ら情報を読み取り、根拠をもって考えを説明したり、相手に伝わるように表現したりする力の段階的な育成が必要である。

昨年度の校内研究の実践を通して、児童生徒一人一人が iPad を活用し、Canva 等のアプリケーションを用いながら、自らの考えを主体的に表現しようとする探究的な活動の場面が多く見られるようになった。教師が ICT を活用した発表などの言語活動や対話的な学びを展開する中で、児童生徒の意欲が高まり、自分の考えを“自分の言葉で伝えよう”とする態度が育成されたことは大きな成果であったと言える。しかしながら、児童生徒に表現内容を支える根拠や手がかりとなるデータや資料を活用させながら探究的な学びを展開することに課題が残った。

よって、児童生徒が自ら思考をより深め、表現する力を高めるための探究的な学びの場の設定や小・中の学びの接続を意識した効果的な指導方法の工夫といったカリキュラム・マネジメントをより図っていくことが必要である。

そこで今年度は、昨年度の成果と課題を踏まえ、データ活用×言語技術×ICT による探究的な学びを通して、児童生徒が目的に応じて情報を整理・分析し、根拠を明確にしながら表現する力を高める児童生徒の育成を目指す。

2 研修の基本方針

以下の方針で校内研修を推進する。

① 日々の実践を研究の中心に据える。

- ・各教科等領域における単元や題材において、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした授業づくりに取り組む。
- ・データ活用×言語技術×ICT による探究的な学びについての理論研修と教員間で様々な教育実践の取組を共有し合い、より良い授業づくりに励む。
- ・「議論【話す・聞く】・読解【読む】・作文【書く】」といった言語技術を通して、自らの考えを深め、根拠をもって表現する場を意図的に設定する。
- ・算数・数学の領域を軸としたデータ活用の学習を通して、情報を比較・分析し、その内容を言語化して表現するという資質・能力の育成を重点的に図る。

② ICT を思考と表現を支える学習手段としての活用

- ・iPad、Canva 等の ICT を「操作すること」を目的とするのではなく、思考の整理や考えの可視化説明の質を高めるための学習ツールの一つとして位置付ける。児童生徒にとって、自分の学びを手助けしてくれる学習手段として活用できるよう、様々な場面での活用方法について教員間で共有する。

③ 協働的な学びを重視した授業づくり

- ・児童生徒同士が対話を通して考えを深め合う学習場面を充実させる。
- ・教員同士も授業実践や成果・課題を共有し、互いに学び合う研修の在り方を大切にする。

④ 次年度を見据えた研究の成果と課題の共有

- ・年度末には、今年度の研究の成果と課題について整理する。
- ・教員間で育てたい児童生徒の姿について共有し、次年度の校内研究・教育実践につなげる。

3 研修体制

本校では、上記の基本方針をもとに、教員が協働しながら研究を推進できる体制を整える。

① 研修推進体制

●研修推進リーダー（佐藤）

- ・年間の研修計画を作成し、研究の方向性を示す。
- ・授業研究の進行をサポートし、成果の共有を促進する。

●研修推進メンバー（各学年・教科代表）

- ・学年や教科ごとの研究テーマを整理し、実践研究を進める。
- ・授業研究の際に指導方法の工夫点を持ち寄り、改善策を話し合う。

●ICT活用支援担当（研究部）

- ・iPad、Canva、生成AIの活用に関する研修を企画・実施する。
- ・ICTを活用した授業実践の支援を行う。

●外部支援者（有識者・大学・他校との交流）

- ・専門的な知見を活かし、指導法やICT活用のアドバイスを行う。
- ※外部による情報モラル研修を実施する（予定）。

② 研修の進め方

前期（4～7月）：昨年度の研究成果と課題を共有し、研究主題および研修方針について共通理解を図る。

1学期間に研究主題にそって実施した教育実践を共有し、より良い授業づくりに生かす（情報交換会）。

中期（8～11月）：各教科領域等における授業実践を進め、実践成果をまとめる。

後期（12～3月）：授業実践を振り返り、成果と課題を共有・整理する。研究を総括し、次年度の研究につなげる。

4 年間研修計画

職員全体での取組（研修・実践）

月	研修テーマ	研修内容・活動	担当
4月	研究主題について	・研修計画の説明	研究推進リーダー
5月	理論研修	・データ活用×言語技術×ICTによる探究的な学びについて	研究推進リーダー
6月	実技研修	・ICTを活用した指導方法について	
7月	教育実践	・校内研修主題にそった教育実践に取り組む。 ・情報交換会	全教員
8月	夏休み特別研修	・講師による講話又は実践事例紹介	研究推進メンバー 外部講師
9月	教育実践	・校内研修主題そった実践に取り組む。	全教員
10月		・実践内容の記録	
11月		・成果をレポートにまとめる	
12月	授業実践の振り返り	・各自の教育実践を共有	全教員
1月	年間の振り返りと改善策の検討	・研究成果の整理 ・課題のまとめと来年度の方向性検討	研究推進リーダー
2月	次年度の研究テーマ検討	・今年度の実践を踏まえ、次年度の計画を話し合う	研究推進メンバー
3月	1年間の総括	・成果報告と次年度の準備	全教員

分掌部会（研究・教育計画）

月 日	主 な 内 容
4 月 1 日（水）	第1回分掌部会（5・6月） ・企画会案件の確認 ・学力テスト（NRT）実施準備
4 月 8 日（水）	職員研修 ・iPad、Google Classroom の使用について（佐藤、湊） ・学力テスト（NRT）実施について（池田）
4 月 22 日（水）	新任者研修 ・LGBTQ 研修（佐藤）
5 月 13 日（水）	第2回分掌部会（7月） 企画会案件の確認
6 月 10 日（水）	第3回分掌部会（8・9月） 企画会案件の確認
7 月 8 日（水）	第4回分掌部会（10月） ・企画会案件の確認 ・「学力検査結果分析」提案
7 月 22 日（水）	職員研修 「情報交換会」（佐藤）
8 月 21 日（金）	夏休み特別研修（外部講師）、iPad の使用について（奥村）
8 月 25 日（火）	第5回分掌部会（11月） 企画会案件の確認
10 月 7 日（水）	第6回分掌部会（12月） 企画会案件の確認
11 月 11 日（水）	第7回分掌部会（1月） 企画会案件の確認
11 月 19 日（木）	第8回分掌部会（学校評価）
11 月 30 日（月）	第9回分掌部会（学校評価）
12 月 2 日（水）	第10回分掌部会（2月） 企画会案件の確認
12 月 8 日（火）	「校内研修授業実践報告」レポート 提出期限
12 月 10 日（木）	第11回分掌部会（学校評価）
12 月 15 日（火）	職員研修「校内研修授業実践発表」 ・校内研修レポート報告
12 月 17 日（木）	第12回分掌部会（学校評価）今年度の成果と課題を検討
1 月 4 日（月）	第13回分掌部会
1 月 5 日（火）	職員研修 iPad の使用について（村瀬）
1 月 6 日（水）	第14回分掌部会（3月） 企画会案件の確認
1 月 14 日（木）	「現地校交流報告」レポート 提出期限
1 月 15 日（金）	研究部研修アンケート 回答期限
1 月 21 日（木）	職員研修「現地校交流レポート発表」「来年度の研修について」 ・現地校交流レポート報告 ・今年度の研修の成果と課題、来年度の研修について（佐藤）
2 月 3 日（水）	第15回分掌部会（4月） ・企画会案件の確認 ・次年度 教育基本計画作成 ・Google Classroom、共有ドライブ等の情報関連整備
2 月 11 日（木）	第16回分掌部会（教育基本計画） ・次年度 教育基本計画作成 ・次年度 Google Classroom、共有ドライブ情報関連の整備
2 月 18 日（木）	第17回分掌部会（教育基本計画） 同上
3 月 2 日（火）	第18回分掌部会（教育基本計画） 同上
3 月 8 日（月）	第19回分掌部会（教育基本計画） 同上